

令和元年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標 (略「学校経営」参照)

2 評価する領域・分野	商 業 部		
3 現状 生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>商業に関する生徒及び保護者の評価「あてはまる」の結果 ()内は昨年度結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人の興味・関心、希望や能力にあった選択授業や少人数授業を行っている。 生徒 80%(82%) 保護者 71%(75%) ・子どもが意欲的に取り組むように授業の工夫をしている。 保護者 66%(77%) ・補習等を通して、一人一人の能力に応じた指導を行っている。 生徒 88%(91%) 保護者 78%(75%) ・生徒の資格取得のための指導がきめ細かく行われている。 生徒 90%(93%) 保護者 89%(89%) ・外部講師の講演や様々な体験活動など授業以外の学習の機会が多い。 生徒 93%(92%) 保護者 84%(81%) ・高校生としてのマナーや社会規範、身だしなみ指導の徹底を図っている。 生徒 97%(97%) 保護者 96%(95%) ・教師は、専門的知識が豊富であり、授業内容について信頼できる。 生徒 96%(99%) 保護者 81%(89%) ・課題研究の内容は自分にとって有意義である。(3年生のみ回答) 生徒 92%(80%) <p>上記の結果より、概ね取り組みに対する理解が得られている。</p>		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「質実剛健・明朗闊達」の校訓のもと、誠実、勤勉で豊かな人間性を育成するために、授業や検定取得、地域連携など、さまざまな取り組みを通して生徒一人一人に達成感や充実感を与えるとともに、望ましい勤労観・職業観を育成する。 		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・商業部を中心としたコース別組織 		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1)各コースが目標とする全商検定取得率80%の達成と高度な検定試験取得者の増加 (2)土岐商ショップ、地域情報提供サイト「TiS」の運営 (3)グローバルマインドを育成	(1)具体的な達成目標を立て、取得率から評価 (2)地域との連携状況から評価 (3)取り組みに対する評価(自己評価・アンケート・感想)		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
(1)各コースで目標とする検定試験合格に向けての取り組み (2)土岐商ショップの出店、地域情報提供サイトの運営	(1)検定取得状況 (2)地域との連携状況	A <input checked="" type="radio"/> B C D A B <input checked="" type="radio"/> C D	
11 成果・課題	○「全商検定3種目以上1級合格者100名!」を目標にここ数年取り組んできた。今年度の卒業生における全商3種目以上1級合格者は74名となり、目標達成には至らなかった。生徒たちの中には、最後の検定まで挑戦してくれた者もいるが、全体として受験希望者を伸ばすことができなかったことは大いに反省すべき点である。 今年度卒業生、各コースの目標とする全商検定1級取得率は以下の通りである。 簿記 会計コース 70.1% 商経 マーケティングコース 59.0% 情処 ビジネス情報科 ビ情部門 36.8% プログラミング部門 39.4% 英語 コミュニケーションコース 31.3%		総 合 評 価 A <input checked="" type="radio"/> B C D

	<p>今年度の高度検定試験の合格数は、基本情報技術者試験4名、全経簿記検定上級1名、日商簿記検定2級28名、日商リテールマーケティング検定2級6名、実用英語2級4名であった。</p> <p>課題としては、高度資格について低調気味となっている。大きな理由としては、各資格取得における出題の難度がかかなりあがっていることである。指導に当たる教員が現在持っているスキルだけでは対応が難しくなっている部分もあり、校内における教員同士の勉強会や意見交換会、校外研修などに積極的に参加して教員全体のスキルアップを図りたい。</p> <p>○地域との連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のイベントにおける土岐商ショップ等の活動 <p>土岐商工会議所をはじめとして地域の方々の協力を得て、地域の様々なイベントに土岐商ショップを出店し、物品の販売を行っている。JRさわやかウォーキングやセラトピア土岐納涼夏祭りなど年5回程度地域のイベントに出店。生徒は、準備から販売実習、片付けを通し、イベントの担当者やお客様、地域の方々とコミュニケーションをはかっている。今年度、包括監査において運営方法等に指摘を受けたことにより、土岐商ショップとしての活動を休止する声も中ではあったが、地元からの強い要望と、何よりも生徒が率先して外部との関わりの中で実践できる場であることから、法的問題をクリアして規約を整備し、次年度も生徒の実践活動の場を継続させることとした。</p> ・中長期インターンシップの実施 <p>今年度「地域産業の担い手育成総合戦略事業」の一環として「中長期インターンシップ」を実施した。地元の光洋陶器株式会社様にご協力いただき、2年生5名が8日間職場での色々な職種を体験した。体験した生徒は進路選択におけるよい参考になったと好感触であり、他の地元企業からも受け入れ希望の声が出ているとの事から、今後学校独自で計画し、継続的な活動としていける検討を行いたい。</p> ・地域情報提供サイト「TiS」の運営 <p>地域情報提供サイト「TiS (Tokisho info Street)」の運営であるが、昨年起こったサーバートラブルによるデータ復旧に終始したため、新しいデータの掲載は行っていない。また、復旧作業を行うなかで、提供データの内容見直しの必要性が浮かび上がったために、各情報提供先に対し内容更新の依頼準備をデータ復旧と並行して行った。まだ、完全な復旧に至っていないが、サーバー提供元である有限会社シーズリー様にご協力いただき、次年度以降内容の更新とサイト構成の見直しを行い、地域に必要とされる情報提供サイトとして運営していきたい。</p> 	
--	--	--

<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <p>(1) 「全商検定3種目以上1級合格者100名」を目標にここ数年取り組んでいるが、思うような結果が得られていない。ただ、学習指導の主要な観点から検定取得に偏重した授業内容になることも避けなければならない、本校としての資格取得内容の見直しを考える時期に来ている。各科目における基礎・基本を確実に定着させ、社会で役立つ技能や能力を養い、その一環としての検定取得であるという位置づけを念頭に置いた指導について、商業科全体で今一度意見を出し合い、生徒にとってより良い授業となるように改善を図りたい。</p> <p>(2) 3年生課題研究では「地域貢献」をテーマに取り組みを続けている。ここ数年は県指定事業にあわせた地域との取り組みが主体となっており、本校独自に考えた新しい地域との取り組みが実施されていない。新学習指導要領において、課題研究の目標に「ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として解決策を探索し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。」とあるように、地元地域の問題や課題に向き合い、探求型の活動の中で、地元貢献できる内容を考えていきたい。</p>		
---	--	--